

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270103403		
法人名	有限会社 ぼ～れぼ～れ		
事業所名	民家型宅老所 ぼ～れぼ～れ松が枝	ユニット名	1
所在地	長崎市松が枝町3番23号		
自己評価作成日	2021年2月日	評価結果市町村受理日	2021年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	2021年3月26日	評価確定日	2021年3月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成30年5月1日に、4階建てでリニューアルオープン致しました。外観は景観地区にふさわしいレンガ色で、会社の色で、認知症カラーでもあるオレンジの帯を入れました。ご利用者の方々の終の棲家という意識で、敢えて看板は出さずに表札にし、入ると木目調の玄関ホールに手すりは柵風です。室内への出入り口は軽いふすまのような感じで、開けるとディのフロアと真ん中にキッチンがあります。建物内はほぼ畳敷きで、フローリングはクッションフロアを使用しています。1階～4階までのトイレのドアはすべて同じ色に統一し、3階、4階の居室は、隣同士の居室はすべて違うドア色で、居間からそのまま畳が続きます。中に入ると何だかホッとする空間になるように、工夫しました。当事業所では、ご利用の様子をご家族様に見える化を図っております。認知症介護研究研修東京センターのセンター方式シートを、ご家族・ご本人と共に作成しております。介護スタッフは、20代～70代まで各年代おり、その中で医療職5名・福祉専門職5名・介護支援専門員2名と、豊富な人材が認知症ケアのプロとして関わっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“民家型宅老所 ぼ～れぼ～れ松が枝”の玄関は、子ども達が“おくんち”の時に「金魚すくい」ができるように設計されている。地元の方々を大切に思い、地域密着型のグループホーム運営を続けているが、コロナ禍、全ての地域行事が中止になると共に、日々の感染対策を一生懸命に努めてこられた。看護師が5人勤務しており、介護職員とも結束し、先手先手で感染対策(CO2測定器を使用し、換気等も配慮)を取り入れ、ご利用者と職員、家族を守る対策を続けてこられた。その中でも家族との関係性を繋ぐアイデアを駆使し、ご本人と家族の不安や要望を受け止めるように努めてこられた。コロナ禍においても「暮らしを続ける」ことを大切に、8月15日のお盆にホーム前で花火をしたり、感染対策をしっかりと行った上で「楽しむ」「遊ぶ」ということも忘れずに、ご利用者と屋上でノンアルコールを楽しまれ、花火大会も行われた。今年の3月は桜の分散花見にお連れし、手作りのお弁当を楽しまれた。この1年で確実にチーム力は強くなっており、“その人らしさを ひきだす介護”の更なる実践に繋げている。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の申し送り時に勤務者同士で唱和し、頭においた状態で勤務に入るようにし、その日の担当を決め実践できるようにしている。	【介護理念】の『目配り、気配り、心配り・・・』等の実践で、個別ケアを心掛ける話し合いが日々行われている。『その人らしさをひきだす介護』も大切にされており、ご本人の思いを引き出し、移動、排泄、食事など、さり気ない見守り等の中で、ご自分の力でできる環境も作られている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で以前のような交流は難しくなったが、出来る範囲での交流は続けている。	青年会の活動も継続しており、コロナ禍の日々の頑張りを共有されている。コロナ前は桐の木保育園の園児慰問、大浦宮日の出店(高校生・専門学生ボランティア)、地域行事、祭りに参加し、中学生との交流も行われていた。保育園の遠足にご利用者も一緒に行き、楽しんでいた。	今後も、コロナ禍における地域の方々、保育園児、家族等との交流方法(ビデオ交流、テレビ電話等)を検討し、一緒に楽しく交流できる機会を増やしていきたいと考えている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に向けて情報の発信は常に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は書面にて実施している。継続して身体拘束・虐待の勉強も行っています。コロナに関しても資料をもとに情報を共有し、当施設で取り組んでいることも報告し、書面にて意見を頂いています。	書面会議になり、より詳細な取り組み内容を報告できるように努めてこられた。最新のコロナ情報と対策をわかりやすく掲載したり、他施設で実際に行われた身体拘束情報を写真付きで報告している。コロナ禍における「楽しみ」も報告し、労いのお言葉や日々の取り組みへの感想を頂いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・市議会議員の方が時々訪問やお電話にて色々なお話しや相談に乗ってくださっています。 ・市町村担当者と密に連絡を取り、良好な関係を築けています。	代表(管理者)や総括責任者が、市役所や地域包括との連携を深めてこられた。コロナ禍は市役所訪問を減らし、電話やメールで情報交換している。市の担当者から「ご利用者のマスク着用の徹底等」の連絡があり、アイデアを駆使して着用の徹底ができるように努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な研修を行い、スタッフ間で声掛けをしあっています。	穏やかに過ごされている方が多いが、行動障害の原因を丁寧に把握し、その都度の思いを傾聴している。感情が不安定になられた時は、屋上で気分転換したり、散歩をされている。近頃の交番に挨拶し、もしもの時に備えて、声を掛けて頂く関係が作られている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様に定期的な研修を行い、普段の場面にあてはめて、カンファレンスで話し合っており、虐待防止に取り組んでいます		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現時点で制度の手続き中の方がおり、それに伴い制度について学ぶ機会をもつよう予定しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、契約書・重要事項説明書を用いて、説明し、納得頂けた事を確認し契約をしています。その後も密に連絡を取り合い、ご本人・ご家族の不安・疑問を取り除けるよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的にご家族に、こちらでの生活の様子を、写真や動画等でお知らせし、ご要望を伝えて頂けるような声掛けや環境作りに努めています。	家族の方々に対する気配りを大切にされている。ご本人の様子を報告できるよう、コロナ禍における面会時間も細やかに検討し、電話、写真、動画、ビデオ通話等を活用して情報交換を続けており、家族の不安や要望を受け止められるように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週1回のカンファレンスで全職員の意見を聞く場を設け、都度個人面談の実施も行っている。	代表、総括責任者、総務担当者は職員の意見を大切にされており、全体行事や研修内容、カンファレンスの内容等、職員の意見を活かすようにしている。コロナ禍における職員の頑張りも高く評価し、日々「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい環境を作るために、各職員の状況を踏まえ希望にそって柔軟に対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度はオンラインでの研修への参加を促し、どういう勉強をしていきたいか、希望を受け入れながら、学べる環境作りをしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長崎市包括ケアまちなかラウンジ主催の介護職員向けの研修や長崎在宅Dr.ネットの研修、症例検討会の研修等をオンラインへと形を変え、交流を続け、振り返りを伝達研修で行っている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の意向を情報ファイル・カンファレンスを通して、共有し担当者2名とケアマネ及び計画作成担当者をご本人に合ったプラン作成を心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設で作成したパンフレットを元に、実際に見学していただき、不安なことなどを直接お聞きし、不安の軽減に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	認知症ケア専門士をはじめ、介護スタッフがお話を伺ったり、実際に介助に入り、その方のニーズを引き出していけるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフが24時間体制で‘その人’を見守り、その人が今、出来ていることに役割を持っていただき安心して暮らせるよう、支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	写真・動画・ビデオ通話を行い、関係性が繋がっていきけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人がご家族や知人・友人を認知出来なくなったとしても、関係継続は大切な事と捉え、その支援に努めている。	ドライブの時に昔住んでいた場所を教えて頂いている。コロナ以前は馴染みのお祭り(ランタン、蛇踊り、諏訪神社でのお餅つき)等にお連れしたり、ご本人の希望で幼少期に過ごされた場所を家族と訪問した方もおられた。以前行かれていた「浜町」や馴染みの理髪店にお連れする方もおられた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気が合うような人たちを同席させ、室内レクの実施や、食事時などの配膳に努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取りをさせて頂いた方のご家族が、イベント時やボランティアのお手伝いで来ていただいたりしていたが、今年度はコロナのため実施できていない		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中での気づきや課題等を週1回のカンファレンスでスタッフと介護支援専門員が話し合いご本人とご家族の想いや意向を把握していくよう努めている。	コロナ禍も感染対策と共に、「暮らしを続けていく」ことを大切にされてきた。行動の背景にある思いの把握に努め、“私の気持ちシート(入居1週間)”や“気分の変化シート”も活用し、アセスメントに活かしている。ご本人と家族の思いを大切にされており、解決策の検討を続けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	馴染みの暮らしや生活歴を、本人の日常会話の中やご家族からのお話を聞き生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で気付いたこと変化などを情報ファイルを利用し、スタッフ間同士の情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	気付いたことなどその都度、情報ファイルに記載し週1回のカンファレンスで情報の共有に努めている。	センター方式の「気分の変化シート」をカスタマイズしたものを活用し、ケアプランに反映している。チーム担当制でアセスメントと計画作成を行い、全職員で話し合い、ご本人のできる部分を増やしてこられた。「食器拭き」「おやつ作り」「配膳」「塗り絵」「編み物」「レクや体操」等も日々行われ、評価を続けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状態の変化に応じて個別に添った記録用紙を作成し、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の体調やご家族の都合に合わせ、申し入れがあればいつでも対応できるように受け入れ態勢を整えている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩や外出時に地域の皆さんに見守っていただいているのを感じます。そのためにも地域の一人として、地域行事にも参加しています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	歩行可能な方は、スタッフ同伴でご家族とともに受診されている。他は往診をして頂きスタッフが同席し、日頃の状態報告を行い適切なケアに繋げている。	往診を受けている。受診時は看護師が介助し、家族に丁寧に受診結果を報告している。歯科医師の訪問診療もあり、摂食嚥下のアドバイスも受けている。日々の詳細なアセスメントで早期発見と適切なケアに繋げており、急変時等は「サイン」の兆候を振り返り、検証する機会も作られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に情報を共有し、本人にとって適切な受診や介護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、入院中の主治医とともにコンタクトを取れるよう、情報交換や相談に努め、安心して治療できる様、また早期に退院できるようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用開始時に「重度化した場合の対応に係る指針」を説明し、同意を頂くようにしている。また状況が変化した場合に都度再確認をしていくようにしています。またその内容をカンファレンスにて、スタッフ間で共有しています。	全員の方が「最期までぼ～れぼ～れで…」と希望されている。『長崎在宅Dr.ネット』の医師に24時間相談でき、往診も受けられる。ホームに5名の看護師が勤務しており、介護職員と家族と連携し、最期まで誠心誠意のケアが行われている。緊急時は看護師同士で現状分析及び対策に向けた検討会議が行われ、介護職員と共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的にカンファレンスで勉強をしながら、急変や事故発生時にも落ち着いて対応できるよう指導と再確認を行い、実際に経験を積み重ね実践力を身に付けています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	カンファレンスにて定期的に利用者の避難誘導方法を確認している。自主避難訓練では、実際に利用者にも参加してもらい、反省点等も話し合っている。	毎月の訓練と共に、消防署と一緒に夜間想定訓練が行われている。エレベーターが使えない状況も想定し、ホーム内の非常階段やベランダへの一次避難場所への避難も行われている。コロナ以前は町内会や老人会の方も訓練に来て下さり、避難時の見守りをして下さっていた。災害に備えてレトルト食品100食程や飲料水24L等を準備している。	①夜の時間帯に避難訓練を行うためのマニュアル整備を続けている。2021年度中に完成予定で、マニュアルに基づいた夜間訓練を行う予定である。 ②屋上に防水の倉庫を設置していきたいと考えており、浸水災害時も想定してテント等も揃えていく予定である。

自己	外部		自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の経験や体験を尊重した言葉かけを常に心掛けながら対応している。	ご本人の自尊心と羞恥心等に最大限配慮し、日々の声かけに注意すると共に、その方にとって心地良い言葉を選ぶように努めている。「ご本人を試すような質問はしない」など、研修時に振り返りを続けており、「明日は会えない事もあるので、今を一生懸命に・・・」を職員と共有している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が気持ちを表現しやすいように、“どうしましょうか？どうしたいですか？”と優しい言葉かけをして、意思表示ができるよう努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望を聞ける雰囲気作りをし、朝からはご利用者様一人一人と挨拶を交わし、その際体調等の変化や気分を見ながら、希望に沿った一日を過ごせるよう努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みを知っているご家族にも協力して頂き、ご本人の好みに応じた衣類の選択、おしゃれが出来るよう支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方に合った食事形態を工夫してお出ししている。ワンプレートやコース料理風に1品ずつ提供する等工夫している。(他利用者に対して)食事介助(声掛け・促しを含む)が可能な利用者に介助に入ってもらっている。	新鮮な食材を使用し、栄養士と調理師が旬の料理を作って下さり、ご利用者もモヤシの根取り、食器洗い等をして下さる。歯科医師から摂食嚥下のアドバイスを受け、トミをつける方もおられる。手作りのお弁当持参で桜の花見を楽しまれたり、屋上でビアガーデン(ノンアルコールビール)もされている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量が少ない方には、エンシュア等の併用や水分量確保のために、様々な形態や種類を用意し、その人その時に合った物を提供するようにし摂取量の確保に努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週に1回、歯科衛生士による、定期的な口腔ケアと共に、そのアドバイスを基に、個々の必要性に応じた口腔ケアを実施している。			

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンにあった誘導をし、可能な方には日中軽失禁パンツや布パンツ使用で快適に過ごせるよう支援している。	排泄パターン等を職員全員で検討し、布パンツへの移行を実施中の方もおられる。自尊心と羞恥心の配慮も素晴らしく、昼間は全員布パンツ(軽失禁パンツ)を使用し、見守り程度でトイレに行かれる方もおられる。ご本人の排泄サインを丁寧に観察し、失禁を減らしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々にあった水分量等を心掛け、排便がなかった日はホットパックや腹部マッサージ等を行い、働きかけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人のリズムに合わせ、体調等も見ながら行っている。入浴後の疲労等も考え、入浴後には休んで頂く等行っている。	皮膚が弱い方用のシャンプーを使用している。入浴習慣(湯温等)を把握し、希望に応じると共に、体調等を考慮して入浴時間を調整しており、リフトも使用できる。湯船に浸かり、楽しい会話をされており、柚子湯や菖蒲湯も楽しまれている。入浴時は皮膚の状態等を丁寧に確認し、記録している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の気温に合わせ、室温湿度の調整、季節や本人の体調に合わせて寝具、寝衣の調整を心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	総括責任者と薬担当スタッフ(2名)薬局薬剤師(3か所)職員全員が情報ファイルにて薬の変更や臨時薬等共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個人の生活歴や年齢、疾病、好きなこと等を把握して本人に合った活動や楽しみを日常の中に取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望に添えるよう、日向ぼっこ・お買い物・散歩・ドライブ等日常的に行っている。本人の日常の中で好みの活動を発見するような取り組みを心掛けている。	毎年恒例の“初日の出”を拝むことができ、公園に散歩に行かれたり、買い物、季節の花見(分散花見)に行かれている。コロナ以前は多々の地域行事に参加し、回転寿司を楽しまれ、港祭りの花火大会、ランタン、平和祈念式典、帆船祭り、大浦諏訪神社での子供の日の餅つき等にお連れしており、家族も一緒に楽しんでいた。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人に不安が生じないよう、金銭管理について配慮しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自ら希望されるのはなかなか難しいが、こちらから働きかけを行い、施設の中での本人の状況等、写真・メールやオンラインで家族との交流を支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感がわかるように各月で飾り付けを行っている。コロナのため新たにCO2測定器も使用して、温湿度計で数値を確認し、換気等も配慮している。	コロナ対策を続けてこられ、弱次亜塩素酸水の散布できる加湿器、CO2測定器等も購入し、数値に基づいた対応を続けている。1階のリビングは認知症デイの方との団欒の場になっているが、密は避けるように配慮している。ホームの居室は3階と4階にあり、エレベーターを利用し移動している。屋上で洗濯物を干したり、日向ぼっこをされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々人の性格を見極めながら、席の配置や聴覚過敏な方にはヘッドホンをしたり、一人になれる空間作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたご本人のもの(寝具・趣味の持ち物等)を室内に配置し、安心して過ごせるように工夫している。	各居室は明るく、見晴らしも良い。衣装棚、筆筒、布団、髭剃り、趣味の編み物などと共に、家族の写真を持ち込まれている。隣同士の居室はドアの色を変え、職員がステンドグラス風に手作りしたものをドアのガラスに貼られている。居間と居室は段差が無く、そのまま畳が続いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	まずは介護者が先入観を持たずに、個々の活動能力を見出し、安全にストレスが少なく生活が送れるよう支援している。		